

六月の保育

生活訓練

倉橋 惣三

生活訓練は、つまりは躾である。躾は、つまりはよき習慣である。すなはち、生活訓練は、日常生活の間にも繰り返さへされてゐることを事項として、それが、おのづからに習慣になることを選ぶのが途である。同時に習慣づけることが大切なのであるから、一旦定めたこと、實行を約束したことは、必ず例外なく實行させなくてはならない。事そのことが、どつちになつても大したことでないからとて、不實行を大目に見たり、大まかにしたりしては、決して習慣にはならない。生活訓練は出来ない。一體、幼稚園内の幼児の生活は、大低がそう／＼大したことでもないかも知れない。一つ／＼の事項そのことの重きが故よりも、習慣生活そのことの必要なるが故の勵行と心得なければならぬことが多い。

「扉の開閉を靜にすること。」これなども、そう大した道徳でもない。しかし、大した意味もないだけに、習慣養成としては特に

いゝといへる。一旦つけば、何んの苦もなく出来る上品な習慣行動である。大した意味もないといつたが、室内には友達がある。何か作業もしてゐる。先生がお話してゐらつしやる。そんな時、亂暴に音を立て、扉を開閉出来るのは、行動の荒々しさといふよりも心持の粗さである。幼い子に、そう／＼紳士淑女のしとやかさもむつかしいとして、扉位ドシン／＼と開閉するのが豪傑だ、大人物だといふのは、野蠻教育である。開閉を靜かにといふことの前には、扉は開いたら閉ぢるものといふことが先づあるのはいふまでもない。これも習慣である。この習慣が二十歳になつても三十歳になつてもついているない人があるが、恐らく、幼稚園時代に、此の生活訓練をされなかつた爲であらう。尤も、馬鹿の三寸とかいつて、いつでも半分位閉ぢたりするのは、先天性として如何とも出来ないのかどうか知らない。

扉の開閉は作法の一つであるが、大切なことは、その室が他人といつしよの室であつて、自分の行動が他人に迷惑を及ぼすといふことの、こまやかな感じの有無である。どうも此點、從來甚だ充分に出来てゐるといへない。先生にも、どうも、少なからずあら、つ、ぼい、人がある。日本坐敷でお茶の湯といふ時には、いともしとやかな人が、幼稚園となると、扉を投げつけのパタン閉めといふのは、洋風生活に敵性を感じてか知らんが、もう何も、扉を西洋のドアと考へにくまなくてもよからう。その餘勢によつて室内の花が散る。色紙が舞ふ。きもがつぶれる。小さな幼稚園だと全園に響き渡つて、天井から塵が落ちる。まさか。

砂場でも、まゝのごとでも、後片づけは中々出来にくいものである。がしかし、之れも、習慣で出来る。たゞ、誰れだつて、後片づけが好きといふ譯もあるまいし、幼児にして、出しっぱなしがそう／＼氣にかゝるといふのも、かんが強過ぎたりする。何んだか、年寄り臭かつたりもする。そこで、こゝにいふ、謂はゞ幼児としてつい忘れるのか一應無理もないことの訓練は、先生がいっしょにしてやるのだが、時々必要であらう。

但、先生の手傳が過ぎると、先生にさせて仕舞つたり、先生がしなければいけないといふ風になつたり、そこは中々の加減がいり、こつが在る。手傳ふと見せて、幼児を引込んで置いて、後は餘り手を出さぬといつたところが定石でもあらう。

が、それより大切にして、有效なことは、先生が先生の領域に於て、片づけをよくして置くことである。幼児には、さあ／＼お片づけと小やかましくいひながら、先生の机の上はくちや／＼のごちや／＼では、「でも先生のは」と幼児だからこそ言はないだけのことである。少くも、その反對のどんなに有效なかは、最も明かなことである。一體全體、清潔とか整頓とか位、先生の風が幼児にうつることの多いことはない。組の風が、ちやんと分れる位である。ちらかし先生の組は、ちらかし子。出しっぱなし先生の組は、出しっぱなし子。餘りのてきめん、恐ろしい位である。

品物を大切に取扱ふ習慣も、前述二項と性質に於て同じ生活訓練である。ぞんざい。なげやり。一寸物を置くにも、ほうり出す

のもあれば、そつと置くのもあり、何も、お姫さまのやうにといふ譯でもないが、之れも習慣で出来る。一體、あんまり亂暴な扱ひ方をする子は、性格のどこかに問題があつたりする。普通の子なら、之れも、親ゆすりか、先生ゆすりで、どうともなるのである。

生活訓練の基礎は先づ先生の生活訓練である。

自由遊戯

上遠 文子

六月と申しますと雨の多い月でございますので私達は自然と室内での遊戯材料を澤山提供しなければならぬわけでございます。お天氣のよろしい日はそろ／＼暑い頃でありますから、戸外と室内でのご分けて考へてみる事に致しませう。

戸外遊戯

笹舟遊び、水遊び 夏も近づいた今日此頃は、やはりお子さん達も水がこひしくなり、お池のそば、川のそば等に自然と集つてしまひます。笹舟、昔からの作り方で御存知でございますが、片方又は両方を折曲げその輪の所を三等分に縦に切込を入れる。次に兩端二つの切込みを組合せ搜込んで、出来上りであります。片方だけだといかだの様、両方だと荷物船の様で、仲々よく走ります。笹が手近に得られない時は、古葉書又は、紙屑で充分上等な舟が出来上ります。